

さぬき市在宅医療・介護連携推進協議会 令和3年度第1回会議 会議要旨（要約）

- 1 日 時 令和3年7月13日（火） 18：30～20：10
- 2 場 所 さぬき市寒川庁舎 3階301・302会議室
- 3 出席者〔委 員〕 12名
十河 章・為國真理・植村麻里・赤松美智代・大河原洋子・防越一美・
穴田美知子・神前政季・都築昌悟・豊嶋英樹・辻よしみ・白井邦佳
（欠席者：矢野勝久・陶山玄三）
〔委員外〕 木田恵美子（大川地区医師会 在宅医療介護連携支援センター相談
員）
〔事務局〕 福澤光朝・山本浩晃・山下昌美
〔傍 聴〕 なし
- 4 議 題 （1）令和2年度在宅医療・介護連携推進事業の事業報告について
（2）令和3年度在宅医療・介護連携推進事業の事業計画について

5 会議の内容は次のとおりである。

発言者	意見概要
(事務局)	<p>(開会)</p> <p>本協議会は、地域の医療・介護関係者等に参画いただき、在宅医療と介護の連携について検討することを目的として設置している。</p> <p>本日の会議について、本来、昨年度の9月に委員改選後の最初の会議を行う予定であったが、新型コロナウイルス感染症対策として、昨年度は2回の会議を书面会議とした。本年度については、高齢者や医療従事者、また、介護事業所従事者の方のワクチン接種が進んでいることなどもあり、感染症対策を十分に行ったうえで開催している。委員の皆さまについては、委員の任期が令和4年3月31日までの2年間となっている。</p> <p>(部長挨拶)</p> <p>(自己紹介)</p> <p>(会長及び会長職務代理の選任)</p>
(事務局)	<p>本協議会の設置要綱の規定では、会長が会議の議長とされているが、本日の会議は、委員改選後初めての会議であり、まだ会長が選出されていないので、会長が選出されるまでの間、事務局の方で議事の進行をする。</p> <p>議題(1)「会長及び会長職務代理の選任について」、設置要綱の規定により、本協議会には「会長」及び「会長の職務を代理する委員」を置くことになっている。従って、会長及び会長の職務を代理する委員を互選により定めることとなっているが、事務局の案として、前回に引き続き、会長は大川地区医師会の十河委員にお願いしたいと思うがいかがか。</p> <p>(委員から意見無し)</p> <p>会長は、大川地区医師会副会長の十河委員にお願いする。</p> <p>会長の職務を代理する委員は、会長があらかじめ指名する委員とされている。十河会長いかがか。</p> <p>香川県立保健医療大学准教授の辻委員にお願いしたい。</p> <p>(辻委員の了承あり)</p>
(会長)	<p>(会長挨拶)</p>

(会 長)	<p>コロナのせいで去年は十分な研修会等ができなかったので、今年は役に立てるような会議や講師を迎えたいので、皆さんの忌憚のない意見をいただきたい。</p>
(議 長)	<p>(議事進行)</p> <p>議題（１）令和２年度在宅医療・介護連携推進事業の事業報告について、事務局から説明を求める。</p>
(事務局)	<p>(事務局説明 議題の「(２) 令和２年度在宅医療・介護連携推進事業の事業報告について」資料１～５ページについて説明する。)</p>
(相談員)	<p>(相談員から支援センターの取組等について説明)</p> <p>本年１月から相談員をしている。コロナの影響もあり相談件数は増えていない。１月から今までに３件の相談を受けた。１件は開業医の医師から“医療的な処置を自宅でもできるように連携をとってほしい”という相談で、ケアマネと連携をとった。２件目はターミナルの方が自宅で最期を迎えたいと娘から受けた。３件目は観音寺の地域包括から“さぬき市内で認知症の方が入院を前提に相談できる精神科はないかという相談であり、さぬき市包括に相談したうえで、回答をした状況。</p> <p>今回の資料に、センターのチラシを入れている。このチラシを作り４月以降、介護関係の施設を訪問しPRしている。</p> <p>また、A3の事業所一覧を多職種が活用しやすいように作成し、７月に配っている。この内容を市のホームページに掲載し公表しても良いかの調査や、内容の更新作業も行っている。</p> <p>今後、在宅医療・介護の連携に取り組んでいきたいので、よろしく願いしたい。</p> <p>何か質問等あるか。なければ次に進める。</p>
(議 長)	<p>議題（３）令和３年度在宅医療・介護連携推進事業の事業計画について、事務局からの説明を求める。</p>
(事務局)	<p>(事務局説明 議題の「(３) 令和３年度在宅医療・介護連携推進事業の事業計画について」資料６～９ページについて説明する。)</p>
(議 長)	<p>説明について何か疑問や意見はあるか。</p>

	<p>8 ページのカについて、多職種研修会の開催について何かイメージを持っている方はいるか。内容でも講師でも構わない。</p> <p>特になければ、事務局と医師会の方で検討するので良いか。</p> <p>自分なりに感じているのが、介護保険が進んできて高齢者が増え、新しい側面を感じていることに、がん治療が進展し延命や生存率が上がってきており、しかし退院しなくてはいけなくなっているのでお世話をしなければいけない状況になる。そういう事例を対応している医師に話を聞くのも良いと思う。癌になる高齢者は進行が緩やかで長期になるので、どこまでどういうことをすればよいのかを経験のある医師に聞けばよいのではないかと思う。もうひとつは、身障者の高齢者が増えてきているので、そういう風に取り組んでいるのかも先取りして講師に聞いてみたいと思う。</p> <p>委員の方でも思いつけば、意見を伝えて欲しい。それをもとに検討したい。</p> <p>それに関連して、コロナのため会場や参加希望等も見て、3密を回避できるようにしなければいけない。リモート研修も検討しなければいけないと思う。</p> <p>住民啓発については、集まりが良い。さぬき市では志度音楽ホールが広いと思う。そうでなければ、今年行ったようなパンフレットの配布になるうかと思う。事務局は何かないか。</p>
(事務局)	<p>平成 30 年度の講演会は東かがわ市で約 300 人、令和元年度は津田公民館に 300 人近く来た。今のコロナ禍の状態であれば、難しいだろう。音楽ホールは 500 人入れるので、できるのであればいいが、できないのであれば昨年度のように全戸にリーフレットを配る方法もある。講演会に来た人だけに啓発するのか、すべての人に情報提供するのか、どちらが効果あるのかを聞きたい。</p>
(事務局)	<p>今年度の計画全体について、発言しにくい方もいると思われるので、マイクを回しても構わないか。</p>
(議長)	<p>そうしてください。</p>
(委員)	<p>講演会について、パンフレットを配るのであれば、ただたんの配布ではなく、事業所や訪問をとおして説明して配るのも方法と思う。</p>
(委員)	<p>コロナ禍なので、住民はリモートは使えないと思うので、可能なら 3 密</p>

<p>(事務局)</p>	<p>を避け旧町単位で顔を合わせて講演会をするのもいいだろう。パンフレット配布だけだと、そこから深めていくことができない。多職種研修会は、リモート研修も可能だろう。昨年度行った zoom 会議はうまくできたのか。</p>
<p>(委員)</p>	<p>できた。</p>
<p>(委員)</p>	<p>専門職に対しては、リモート研修で何か企画すればいいのだろう。</p>
<p>(委員)</p>	<p>住民には zoom 研修は無理なので、小さい単位で対面して行うのなら効果的と思うが、全体にというのであればパンフレットになるのだろう。</p> <p>関係者の研修会は、支部でも検討はしている。連携を深める意味合いでいうと、交流会や実際に意見を交わすということが大事と思う。3密にならないような状況で行うといいと思う。</p>
<p>(委員)</p>	<p>薬局としても住民に対して健康教育をしていた。昨年度の栄養チューブの研修会に参加し、勉強になった。</p>
<p>(委員)</p>	<p>在宅医療・介護連携の課題の抽出と対応策の検討のところで、“医師の考えや思いについて知るためのアンケートを行い”について“考えや思い”というのはざっくりとしているので、もう少しはっきりとしたものが聞けるといいと思う。在宅医療の訪問日数とか患者数が分からないのであれば、実際に対応している人数や、医療と介護の連携での困っていることは何か、コロナ禍で対応していくことの困難さとか、具体的に聞くとよいと思う。</p> <p>多職種研修会オンラインと対面のハイブリット形式として、どちらでも選べるようにするのがいいのだろう。意見交換について、コロナの中で実際に困っていることはあるのではないかと思う。介護や医療で実際に家でこういうことが困っているということ、私たちは住民に教えてあげたり、自分の親がこうなった時にどうすればいいのかということを知りたいのではないかと思う。そういうことも踏まえて考えてもらえればよい。</p>
<p>(委員)</p>	<p>コロナ禍で 1 年以上たち、最初はそうでもなかったが、今年の正月以降あたりから、コロナのため病院に入院せず自宅で過ごすという人は増えてきている。それをサポートする在宅医も、以前よりたくさんでききているので、サポート体制としてはできてきていると思う。訪問に対する状況としては、在宅看取りなので、県外から家族が帰ってきており、躊躇することもよくある。PCR 検査をしてから帰って来てもらうなどいろいろな決まり</p>

	<p>事をつくり対応していくということに追われた印象がある。これからはそのあたりをきっちりしていかないと在宅看取りも難しくなってくるのかなと思う。</p>
(委 員)	<p>地域住民への啓発と多職種への研修はその時々で分けてする方がいい。今後臨機応変に考えていくとよい。</p>
(委 員)	<p>最近感じていることに、精神障害・発達障害・認知症の方等、そういう疾患が混在している方や、疾患が曖昧の方がいる。訪問診療で精神疾患や認知症が対象となると、人数的に依頼するのが難しい。そういうニーズを持っている人がいれば、話し合いをしたり、そういう人を対象とした訪問診療・訪問看護をしている方がいればそういう人の話が聞きたい。</p>
(委 員)	<p>施設においては、会議は zoom で研修は映像でしている状況。施設においては、クラスター防止が最重要になってくるのでコロナが収まってきても、この体制はなかなか変わらないと思う。地域住民の研修会は、密を避けて、コロナの状況を見て考えないといけないと思う。</p>
(委 員)	<p>研修については、テーマ・内容を皆さんに聞きながらになるかと思うが、最終的には何かの案を示しながらやっていくのかなと思う。ご意見を反映できるものをやっていただきたい。コロナ禍においてワクチン接種もなかなか進んでいない状況はあるが、どういう形になるかは皆さんから意見をいただきながら考えていければいい。</p>
(事務局)	<p>ありがとうございました</p>
(議 長)	<p>具体的にどうするかは、今の意見を参考にしながら、事務局と医師会に一任していただくようになります。それでは終了します。</p>
(事務局)	<p>(閉会)</p> <p>ご協力をありがとうございました。皆さんから出た意見、普及啓発や研修に関して、事務局と大川地区医師会、東かがわ市と協議しながら進めていきたいと思います。</p> <p>次回の協議会の会議の開催は来年2月頃を予定している。新型コロナウイルスの状況の状況を見ながら開催について判断していきたいと思う。時間は18時半からとします。以上で、令和3年度 第1回さぬき市在宅医</p>

	<p>療・介護連携推進協議会を終了する。</p>
--	--------------------------